一般社団法人 山口県バスケットボール協会 U12 部会

普及施策報告

山口県 U12 部会では、「すべての子どもに出場機会を」という理念を、単なるスローガンではなく、具体的な制度と大会運営として県内全域で実行している。勝敗や一部の選手の活躍だけに偏らない環境を整え、初心者から 6 年生まで、誰もが主役としてコートに立てる仕組みを構築してきた。

また、低年齢層への入口づくり、地域メディアとの連携による発信、そして卒部直前まで活動を継続できる年間設計を一体的に進めることで、「始めやすく、続けやすく、応援される U12 カテゴリー」の実現を目指している。

以下に、山口県 U12 部会が重点的に取り組んでいる普及施策について報告する。

1. U12 カテゴリーの細分化等による、楽しめる活動と卒部（卒団）までの活動保障に向けた取組

山口県U12 部会では、リーグ戦を利用し、「最後の一人まで試合に出られる環境づくり」「最後まで主役の事業づくり」を実現している。加えて、県および地区リーグ戦では、申込書記載の全選手に出場機会を与えることを明確にルール化し、「ベンチに座ったまま大会が終わる選手をつくらない」運営を徹底している。

１－１．リーグ戦の細分化

チーム事情によって出場機会が制限されることがないよう、1 登録チームから複数チームでの出場を認める運用、人数の少ないチーム同士による合同チーム編成を積極的に認め、一人でも多くの選手が公式戦の舞台に立てる仕組みを整えている。

さらに、Ⅰ～Ⅲ部のリーグ構成の中で、Ⅲ部に U10 以下の専用グループを設置するなど、年齢や経験に応じた細分化を行い、「上級生の大会に出られない低学年」や「競技レベル差による参加困難」を解消している。

１－２．U10・U9 以下の大会

U12 部会として、各地区・各市に積極的開催を依頼している。これを受けて、各市で U10・U9 以下の大会を積極的に開催し、軽いボールの使用や低いリング、フリースローラインの変更など特別ルールの導入、フリースロー大会の実施など、低年齢から「試合の楽しさ」、「参加することの楽しさ」を体験できる場を継続的に提供している。





１－３．卒部（卒団）までの活動保障に向けた取組

6 年生に対して、活動の空白期間をつくらないよう、

- 2 月に DC 選手によるチーム編成大会を実施
- 2 月末まで地区および県リーグ戦を継続開催

することで、卒部直前まで試合に出続けられる環境を整備している。

これらの取組により、出場機会の格差解消、年齢・レベルに応じた参加環境の整備、卒部直前まで活動できる年間設計を実現し、更に「最後まで続けたくなる U12 カテゴリー」の環境づくりを県全体で進めている。

2.　ファン層を大切にした取組および広報活動の実施

「子どもたちの頑張りを地域全体で応援する環境づくり」を目指し、地元メディアや企業と連携した広報活動を積極的に展開している。

２－１．事業（大会）の配信

全国大会予選の男女ファイナル 4（準決勝・3 位決定戦・決勝）では、地元テレビ局と連携し、試合のアーカイブ配信を実施。テレビ局 HP からもアナウンスしていただき、バスケットボール未経験者や会場に来られない保護者や関係者、地域住民も試合を視聴できる環境を整え、大会の注目度と応援の輪を大きく広げた。

さらに、地元テレビ局や企業の協力により、テレビ番組への出演、地元企業 CM への出演といった機会を創出し、実際に各チームが出演することで、「地域の子どもたちが主役となる広報」を実現している。

２－２．大会結果や試合の様子の PR

新聞社へ継続的に情報提供を行い、紙面掲載を実現。選手たちの活躍が地域のニュースとして取り上げられることで、バスケットボール未経験者や家族や地域住民の関心と誇りを高めている。

これらの取組により、会場外でも試合を楽しめる視聴環境の整備、地域メディアへの継続的な露出、子どもたちが地域の「主役」となる発信を実現し、地域全体で U12 カテゴリーを支える空気づくりにつながっている。

3.　新たなバスケットファミリー（低年齢層）に向けた取組

将来的な競技人口の拡大を見据え、山口県 U12 部会では「まずは触れてもらう機会づくり」を最優先とし、低年齢層を対象とした普及活動を県内各地で展開している。

３－１．体験会の推奨

U12 部会として、各地区・各市に新たなバスケットファミリー（低年齢層）に向けた取組を依頼している。各地区・各市・各チームで未経験者や低学年を対象とした体験会を積極的に開催し、「初めてのバスケット」を気軽に体験できる環境を整えている。体験会ではユニホームを着せてバスケットボールを体験するなど、色々な取り組みを実施している。





３－２．他県の施策を検討

JBA の HP に掲載されている他県の先進的な取組を参考に、未就学児や未経験者を対象としたキッズイベントを、2026 年度の新規事業として実施予定としている。競技経験の有無に関わらず参加できる内容とし、遊びの要素を取り入れたプログラムで「バスケットボールとの最初の出会い」を創出する計画である。

３－３．キッズサポーターの養成

　低年齢層の活動を支える人材として、キッズサポーターの養成を積極的に進めており、子どもたちが安心して参加できる環境づくりを人的側面からも強化している。これらの取組により、未経験者でも参加しやすい入口の整備、低年齢からの継続的な競技参加、

新たなバスケットファミリーの創出を着実に進めている。

　これらの取り組みは、今後も検証と改善を重ねていくのは当然ながら、謙虚に他県の取り組みを学び自県に取り入れていく予定である。弊部会では、今後も JBA の理念に基づき、すべての子どもが安心して始め、最後まで続けられる環境づくりを軸に、普及と育成の両立を図った取組を継続・発展させていく。

以上